

成器



1998
No. 3

- CONTENTS
- 会報「成器」第3号
実行委員会 ... 2
会内概要
 - 高等学校の現況 ... 2
新入和先級生
 - 中学校の現況 ... 3
三鷹中学校
 - 「健行会」
相和13年生の
クラス会 ... 4
 - 同窓会活動会
議にて ... 4
高木博士
 - 「クラス同窓会か
らのメッセージ」 ... 4
川口雅树
 - 大阪下町少年物語
「恋が叶う」 ... 5
中島翠緑
 - 伊藤大二郎
「ラッシュに熱く
クラブ活動物語」
 - 同窓会行事 ... 6
 - 東京・京都 ... 6
 - 同窓会活動報告 ... 9
 - 中学校・9年度
基本方針課 ... 10
 - 平成10年度同窓会
への考え方 ... 11
 - 平成8年度
決算報告 ... 11
 - お仕がせ ... 12
 - 平成10年同窓会及び
懇親会の二割内 ... 12



成器学園同窓会
大阪学芸中学校 大阪学芸高等学校

会報 第二号発行にあたり



同窓会会长 井内博見

わが母校学校法人成器学園は平成十五年（西暦二〇〇三年）に創立満百周年の記念すべき年を迎えます。この間卒業生は約三万人に達するものと予測されます。この百年間、学園経営は決して平坦な道ばかりでなく、太平洋戦争による今宮校舎の焼失、終戦後の学制改革、三林山林事件等、学園の存亡に関する大事件を学園経営者、教職員、同窓生が一丸となって対処してきた結果、無事今日の繁栄を見に至っているものであります。

あと六年後に控えた創立百周年には盛大な記念行事を企画し、学園経営の磐石の基盤固めに、全同窓生をあげて全面的協力を致さねばなりません。

さて、現状の学園及び同窓会の現状についてご報告しますと、平成十一年三月末現在卒業生は二万八千人を少し超える人數に達します。平成八年大阪学芸中学校新設後二年生百二十名、一年生百十名、計二百三十名が中学に在籍しています。高校の方は二年生四百二名、二年生四百一名、一年生三百六十六名、計一千百六十名、中高全体で生徒数は千三百九十九名になります。

学園が財政的に成り立つには千二百名の生徒数が必要であると試算されていました。平成元年度一千八百名いた生徒数は平成八年一千三百四十五名にまで激減しています。平成八年度中学校に三百三十四名の新入生を受け入れた結果の数字が千三百四十五名ですから、高校生だけでは千二百十一名と、かっての在校生の六割に減少

しています。この生徒急減対策として学園は中学校の新設に踏切りました。男女共学、六年制一貫教育の進学校を目指し、新校名と新しく校舎を建築し、教育内容に相応しいカリキュラムを設定し、世間に一般の方々に公表しました。これに対し関係先から大きな期待を寄せられ、中学校として好スタートを切ることができ、予想以上の生徒数（募集人員は一年生二クラス八十名の予定）確保につながっています。

一方同窓会活動の方も役員委員会など活発な動きが出ており、平成十一年度、学園創立九十五周年記念として「同窓会会員名簿」を発行することにきめました。同窓諸氏の原稿提出、広告賛助につき、よろしくご協力の程お願い申し上げます。

同窓会本部の定期総会、高野山一泊参拝旅行、秋季懇親会等の恒例の行事は例年通り実施して参りました。又東部成器会、賛三会（昭和十三年卒業、第三十三期生同窓会）、三九会（昭和三十九年卒業の同窓会）等の総会も賑々しく開催されました。

各期、各クラス、各地区の同窓会活動等開催された際にはその模様を同窓会宛お知らせ下さい。

同窓会の皆様には、平素は本校教育の発展に何かと御支援賜り、感謝しております。お蔭をもちまして本校教育も充実してきており、進学率も徐々ではありますが上昇しているのは喜ばしいことと思っております。

よいよ本年四月から男女共学の国際コースをスタートさせます。教育課程、学習内容、指導方法等についての検討も一通り終えて、いま、募集に力を注いでいるところです。

学校では、日頃の学習活動の他、課外活動も活発に行われ、体育・スポーツ活動においては、府内の国・公・私立高等学校が二八四校あります。学校としての総合成績順位は、平成八年度に十三位という好成績を治めました。平成九年度も昨年度に劣らず活発に行われております。殊に、昨年十月下旬には本府主催の「なみはや国体」が、統いて十一月はじめに「ふれ愛びっこ」が行われたこともあって、生徒、教職員ともに様々な面でこの行事に参加し大阪の心意気を全国に示すのに少なからず貢献しました。めだたた所では、本校バトミントン部が主力となり、福川和也の両君が出場し、熊本県との手に汗にぎる接戦の結果、優勝しました。また、奥野泰正君が銃剣道、小林誠治君が空手道で健闘した。さらに、成年男子バレーチームでは、本校職員の久米藤馬氏が監督として奮戦し本府に優勝

学事報告



大阪学芸高校校長
安永和夫

をもたらした。国体に続いて行われた「ふれ愛びっこ」でも、本校の天本秀晃教諭が五十メートル競泳とアーチェリー競技の両部門で健闘し優勝の栄誉に輝いた。

それに先立つ八月下旬には「インド・パシフィック・ランボリン選手権大会」が南アフリカ共和国のダーバン市で開催され、本校の都竹貴宏君が十六・七歳ラ

ンクでシングル、シンクロ両競技で準優勝、銀メダルの栄誉に輝いた。八月三十日はアメリカンフットボールの日米親善試合が長居競技場で行われ、関西高校選抜チームと米国オレゴン州の名門アンダード高校チームが対戦し、箕面自由学園高校の全国一の技術をもつチアガールチームの華やかな演技に彩られ、多くの観衆を集めて夏の一夜を飾った。本校からも選手として嘉田将人、北本信之の両君が登場し善戦した。さらに、九月下旬には香川県坂出市で行われた第十六回全国バトミントン選手権大会で松下文雄君が準優勝の栄誉に輝いた。

一方、文化部活動も盛んで、国体等での総合成績順位は、平成八年に五位と、いう好成績を治めました。平成九年度も昨年度に劣らず活発に行れておりました。殊に、昨年十月下旬には本府主催の祭吟詠詩部門発表会に出席するなど全国レベルで活躍した。詩吟部も奈良の桜井市民会館で行われた全国高等学校総合文化祭吟詠詩部門発表会に出席するなど全国レベルで活躍した。また、創設もないパソコン同好会の金正俊英君がインターネット上に本校のホームページを開設するなど大いに活躍した。その他、ソフトテニス部はじめ運動各部、文化部各部がそれぞれ成果を挙げ、生徒たちがそれを青春を讃美している。創立以来、本校が掲げてきたいわゆる「文武両道」の精神が再び開花しつつあるのは、やがて創立百周年を迎える本校にとっては嬉しいことだと思っています。

大阪学芸中学校のとりくみ 「よく学びよく遊べ!!」



大阪学芸中学校長

三原克二

大阪学芸中学校も平成8年4月開校以来3年目を迎えようとしている。現在一年百十名、二年百二十名、計二百三十名が元気で通学している。この間、生徒と教職員の大変な努力によって、当初から目標にした、①男女共学、②6年一貫教育、③進学校の実態を明確にしつつある。週39時間のカリキュラムのほか、週3日の特別授業を組み入れ、夏休み冬休み等も学習に当てるという、きびしい学習計画が実践されている。この間、単に学習だけでなく、生徒達の自主的な行動と、自分で伝統を作っていくという精神を養うために、毎月、学校行事を組み入れ、総合的な人間教育も追求している。幸い、わずか過去2年間のこうした取り組みも、高く評価され、来年度の入試に大きな期待が寄せられている。

ところで、平成9年度の4月から今日まで大阪学芸中学校が実践してきた、諸々な行事を生徒の手で、自分で語ってもらおうと思う。次の内容は、十二月二十四日、第2回クリスマス音楽祭の中で、紹介された、放送部の原稿である。生徒達の努力のあとがよく解る。中学校の内容

を理解していただくと同時に、今後とも御指導いただきたいと思う。

『放送部によるこの一年をふりかえって』

*四月、大阪学芸中学校の小さな桜の花が舞い散る中庭に、制服がまだ不似合いな、小学校を卒業したばかりの第二期生 新一年生が本校に入学してきました。「ワア・カワイイ。」「デカイ。」

、「なまいきそうやな。」等と、三人三様の意見を各々が口にしながら、入学式が行われ、大阪学芸中学校に、さわやかな風と共に新しい一年がやってきました。

*五月には、スポーツ大会があり紅白に分かれ、応援合戦をしたり、競技を競いあつたりと、様々な分野でのぎをけずりました。「一年生、はじめてのスポーツ大会は、応援合戦等、表舞台の華やかな競技も大変でしたが、運営設営、放送等の裏舞台の過酷さを味わいました。そして、その責任の重さを知りました。僕達は、大会が成功に終わって、胸をなでおろしたのが印象的です。

*六月には、英語検定があり、二年生のみさんは、頭をフル回転させて精一杯、頑張りました。

*だんだん暑くなっていく七月。一年生は、林間学校、二年生には臨海学校がありました。

「一年生の林間学校では、まさに暑さと闘う三日間でした。風呂作り、トイレ作り、食事作りなど、身の回りのこ

とから、自然を満喫するために、大山の見える山に登り、造林地で木を切り、植林地でなえ木を植えるなどをしました。水が極端にすくなく、苦労したこと、よく覚えてます。活動を終えた後のフリータイムが、最も樂しいひとときでした。

帰りのバスの中では、皆、ぐったりとつかれきっている様でした。その後、学校で、明日は台風で休みだ、と聞かされ、皆、とっても喜んでいました。

とにかく、とても疲れたけれど、楽しい三日間でした。』

二年生の臨海学校は、台風の影響で、予定が狂い、行くことができなくなつた生徒もいましたが、遠泳、カッター、ヨット、カヤック等の、シーズンスポーツを楽しみました。

*炎が猛る様な、夏真っ盛りの八月の下旬、夏祭りを行いました。みんな、お

そろいのTシャツで研究発表、演劇、ダンス、共同制作等、それぞれの分野で、保護者の方々、生徒のみなさんが協力し合って素晴らしいものに仕上がりました。『二回目を迎える夏祭りは、初回より一段とグレードアップして行われました。

夏祭りを盛り上げるために、ダンスや演劇や一発芸なども行われました。屋台や遊びの数もかなり増やし、学校周辺の人もたくさん来校していただけた。

* * * 四月から十二月までの約一年間

そのかいあってたくさんの方が来校しました。この夏まつりは大成功でその幕をとじました。』

*そして夏をひきずる様な暑さ、夏まつりの余韻を残した九月は、月例テストからはじまります。毎月のこととはいえ、少し氣の重いテストだったことだと思います。

九月には、フィールドワークもありました。実行委員の方、先生方が豪雨の中の下見をして下さり、行事を大成功に終わらせてくれました。

*秋の深まり、冬に近づいて、木の葉が黄金色にかわるうという10月、芸術鑑賞——劇団四季による『ユタと不思議な仲間達』を見ました。一年生の広報の人達が、早くから、インタビューや、情報を集め、しおりにしてくれました。

*水がだんだんつめたくなっていく11月、今度は、クラス対抗のスポーツ大会が行われました。一年生は、バスケット、マットそして、バスケット、サッカー、バレーボール、ダンス等で頑張りました。

*クリスマス・大晦日：皆、浮き足立つ十二月、二年生のカナダ研修に続き、本日のクリスマス音楽祭。——今日のため、昼休み等も利用して、練習してきました。結果がどうあれ、皆、力一杯頑張りました。

* * * 四月から十二月までの約一年間

「賛三会」同窓会賑々しく開催(昭和13年卒業)

去る、平成九年二月九日「賛三会」なる同窓会を我等三回生が千日前のミュンヘンなるビアホールの洋室で開催したところ、二九名の同期生が集まりました。会は盛大に進行し一時開会、延々と続き四時閉会しました。何故そんなに時間がかかったのか?との質問に答えますと、それは出席者全員がテーブルスピーチをして呉れたからであります。その上御来賓として出席の井内同窓会長、安永学園長、大矢先生にもテーブルスピーチを頂き最後までご臨席下され感激の至りでした。

顧みますと、平成六年四月成器学園春の同窓会のご案内状を受取った時小生は同窓の西田孝氏に連絡し、消息の判明している同窓生に出来るだけ多く出席頂くよう努力をしましたところ何と、一九〇名の卒業生中、二十五名の方が出席して呉れました。尚都合で欠席された方は十一名で他の百五十四名の方は戦死か病死又は学校への音信不通の方と思われます。然し全学園の同窓会総会には同期同窓生が二十五名も出席したので総会役員の方から称賛を受けました。然し、六十年に垂んとする空白の中で青春期の印象を取り戻しフランクに過去を話し合うには二時間半は短か過ぎると思いました。そこで一計を案じ、二次会を学校の別室で開くことにしました。二次会には全員が出席してくれました。会合には酒類は出しませんでしたが、全員に学園を果立つてからの自分の人生について語って頂き約二時間余りの間お互いに苦楽を語り合い和気藹々裡に閉会しました。その節に、早く次の会を開いて欲しいとの意見が出ました。そして閉会に先立ち会の愛称(ニックネーム)を決定しました。愛称



平成9年3月29日 感薦賛三会 於 ニューミュンヘン
市士佳館

同窓会 幹事 三浦記

以上

は「贊三会」と云う立派な名前です。由來は三三回をモジリ、忘れがちな人生の恩、即ち「親の恩」「師の恩」「社会の恩」の三つの恩を忘れず、感謝すると云う着想に基づき三つを贊へる三三回即ち「贊三会」と決定しました。人は誰しも自己主張したい欲望を持っていますが、スポーツ・美術・詩文等々以外では言説に依るしか自己表現をしにくいもの故、そういう機会が与へられたら喜んで実行するものだと思います。

我等「贊三会」は相集う者全員に自己発表のチャンスを作る事をモットーとして会の繁栄を図って行きたいと思ってい

最初、先輩に同窓会活動への参加を勧められた時、「同窓会って!」暗い、きびしい、しんどい、という不安を抱きながらも、義理もあって初会議に出席。いやなら「消えちまえ」それが正直なところだつた。ところがどっこい、時には熱く語らい、時にはチャメックたっぷり、ユーモア満載、だれもが満面の笑みを浮かべながら、会議進行。正直言つて、私の中の同窓会のイメージとのギャップに、「何

同窓会活動を通じて

平成三年卒業
厚生委員会

高木康之

同窓会からの始まり
高校十六期 昭和三十九年卒業
川久保 明

だからこそ、私も六年間活動が続けてこれたのだと思う。楽しき仲間、楽しき先生、楽しき学校

母校を卒業後何とか継続している旧三年C組（久米学級）の同窓会は、常に十五名前後で、減少しても増えることのない状況であった。昭和三十九年に卒業し、共にクラス同窓会のお世話をしてきた藤岡君が他界して、かれこれ十年が経つだろうか。彼との出会いはバーレーボール部であり、高二時はキャプテン（マネージャー）という関係であった。担任が監督でもあり、成るべくしてこのコンビがクラス同窓会の幹事になつたのである。彼は平安閣という結婚式場に勤務し、若くして役職の立場に抜擢される程の人物で、我々の出世頭であった。大国町の平安閣でクラス同窓会を企画し大成功し、喜んでいた彼の顔を今でも鮮明に覚えている。その後彼が急逝した連絡を受け、急ぎ驚きお通夜の席に行けば、同じ思いの仲間がすでに来ていた。ご遺族にお悔やみの言葉を述べ、周りの様子を伺うとすでにお経も済んだのか住職もお通夜の客もおらずひっそりしていた。寺の住職をしていざる寺島君が読経しはじめた時、「私は思わず」「おい、藤岡！なぜこんなに早く行ってしまったんだ」と泣き叫んだのである。

彼の後任として、文字通りエースアタッカーだった米田君になつてもらい、再びクラス同窓会を続ける様になる。鷺波のアメリカ村近くの某ホテルでクラス同窓会をやつた時、久しぶりに来た一、三人が偶然にも揃つてまぶしい頭で、お互にがそれを見「おい変わったな」「おまえも変わったな」とさすり合うひとコマもあつた。心斎橋の蓬萊でやつた時は他のクラスの鳥野君が特別参加した時で、彼は「いいなあ、C組はいつも久米先生を囲んでやれて」と言い出した。話題は同窓会のことになり、他のクラスは恩師が亡くなられたり、退職されたりで開店休

業が多いことが判明した。そこで誰からともなく「これからは同期生の同窓会をやろう」の声が上がった。

しばらくして、平成四年の成器学園同窓会秋季懇親会の案内状が届き、米田君と二人で東梅田の某ホテルに行くことにした。目的は懐かしい恩師に逢うということより、同期生の同窓会の準備だったかも知れない。受付を済まし宴会場に入ろうとした時、声をかけられ見ると一年上級の応援団で活躍されていた泉谷先輩で、密かな目的を伝えると「学園の同窓会を手伝わないか」と勧説された。会場は若い卒業生が少なく、伝統校を象徴する様な先輩方が多く、P.T.Aのご婦人方や、懐かしい恩師の顔が目に飛び込んできた。よく見ると、私が一年生の時の担任だつた山本英雄先生で、なんと校長先生になつておられたのである。恩師の間を挨拶をして回つたのは勿論言うまでもない。

学園同窓会の新役員として二人が会議に出席したのは、その後間もないことであつた。会議は静かな方で、要領もつかめないままだが、折角来たのだからと自分なりの意見を出し、それはそれなりに通りもした。同窓会名簿を入手し、同期生のみの名簿を作成した後、早速活動を開始し他のクラス幹事と連絡を取つた。

平成五年三月、同期同窓会の初めての幹事会を開き、日時、会場、会費、人数、案内文等決議した。二週間後に二回目の幹事会で会長に私が、事務に米田君が、葉書と印刷の担当に塚本君が、恩師の連絡担当に谷口君(母校で教師をしている)に決議した。本会を昭和三十九年の卒業生でもあった。その二・三年後の世代に因んで成器三九会(サンキュー会と読む)と私が提案し、賛同を得た。我々の時代背景は第二次世界大戦が終る前後に生まれた、戦後第一号の入学生でまた卒業生でもあった。その二・三年後の世代が有利であった。当時は鈴木校長先生で毎朝行う生徒朝礼で熱弁をふるわれており、

生徒指導面や精神面の訓話が中心であった。生活指導と言えばディーン室と称する部屋があり、怖い先生方がいつも控えておられた。怖いと言えばヤンマン、キッサン等が双璧であり、他にも厳格な先生がおられ、我々以上に頭を丸められるのには驚いた。丸坊主の先生とは、ご住職でもある太田先生と珠算の名人と知られた橋本先生である。当然我々は丸坊主を強いたわけで、ごまかして伸ばすとディーン室でこつり油を絞られるのである。防寒具を認めさせようとした先輩達の前で、冬の寒い朝礼台で高齢の中山先生が禪一枚で身体に冷水をかけた逸話も残っている。卒業時に流行した歌に船木一夫の「高校三年生」があり、今もクラス同窓会の定番になっている。成器商業高校の普通科（一期）がスタートした年もあり、商業科五クラスと計六クラスあり、無事卒業したのは三百十二名である。住所判明者数は百九十八名、不明者数は百一名、物故者数は十二名であり、大阪市内が七十二名府下が百四名、他府県が二十二名である。当時の担任はA組一宮先生、B組竹内先生（故）、C組久米先生、D組久保井先生、E組永浜先生、普通科豊島先生（故）方である。

いよいよ平成五年七月三日に第一回成器三十九会同窓会が戎橋ミュンヘンシティで開催され、計七十七名が集まつた。恩師は久米・久保井・永浜・川岸・三浦先生方が、来賓で故山田同窓会会长のご来席を賜つた。第二回は平成七年五月一日に同会場で開催し、計四十名が集まり、恩師は久米・川岸先生が、来賓で井内新同窓会会长のご来席を賜つた。第三回は平成九年七月五日に道頓堀ホテルで開催し、計三十四名が集まつた。恩師は久米・永浜先生のご来席を賜つた。延べ出席者数百五十一名で、回を増す度に減少の傾向が見られ責任を感じる。早く單な学園同窓会の礎となる所存である。

大阪下町少年物語

—遙かな昔、遠い思い出—

中華書局影印
卷之十一

三九

その頃の子供の服装は和服に下駄
きであつた。絹の着物で、夏は单衣、冬
は袷。通学もその姿で、学生帽をかぶる
だけである。九州の小学校では、式など
はなく、生徒たちは、おなじく、おなじ

の時は個学生生でも満をはいたか太陽の大半は袴姿は見かけなかつた。小学校二年生の時、クラスでただ一人洋服の子がいた。お医者さんのポンポンである。私たちは「エエン(金持ち)やさかいなあ」と羨んだ。クラス全員の写真をとるときなど一人だけ輝いて見えた。子供の着物はしてい腰のあたりを縫い上げしてあつた。背が伸びても、その縫い上げで調整ができた。

校長先生の講話は、早く終わってはいため、上の空で聞く。これで式が終わり、待望の紅白の饅頭が貰えるからである。式の日、大半の生徒のお目当ては、この饅頭にあった。

一月一日の歌については、子供たちの間に替え歌が大流行した。“豆腐の始まりは豆である”尾張名古屋は、大地震、松竹梅ひつくりかえして大騒ぎ、後の始末は誰がする”というものの歌の稽古の時間に、調子にのって替え歌の一部を歌い、先生から大目玉をくつた者がいた。

朝鮮半島から大阪へ移ってきて、服で情けなかったのは、前垂れを着けさせられたことである。それまで私は、男の前垂れは、商店の丁稚や小僧がかけるのだと思い込んでいた。ところが大阪では、子供の前垂れは当たり前のことだった。いう。そんな格好で学校へ行くのは恥ずかしくて厭だった。随分と抵抗したが承られない。しかし数日もすると慣れ始めた。級友のほとんどが前垂れだったからである。下町の子供たちはハンカチやちり紙のような気のきいたものは持たない。前垂れで手の汚れや鼻水拭いた。鼻たれ小僧は、鼻汁を着物に拭き、袖をピカピカにさせていた。多かった。子供の前垂れは、着物のよれを防ぐほか、ハンカチやちり紙の代でもあった。学校で式などがある時は新品か洗い立ての前垂れをかけて行つことを覚えている。

式といえば、一月一日、紀元節、天
節の三大節には、学校で儀式がある。ま
ず、教育勅語の奉誦。教頭が眞白い手
帳に分類して持つて誦。次に各班、校

中島様は一月に病にかかり、日下焼でリハビリ中であります。ご回復を祈念申しあげます。

東晉歷器全譜卷之三

先生が受け取つて、厳そかに読み上げる。勅語は低学年生には、お経にも似て難解至極。早く「明治二十三年十月三十日、御名御璽」にならないかと、待ち遠しい。その後三大節の歌が続く。一月一日（年の始めのためして）、紀元節（雲にそびえる高千穂の）、天長節（今日のよき日は大君の）の奉祝歌である。最後に太販市歌となる。「高津の宮の昔より、代々

の榮を重ねきて、民のかまどに立つ煙、賑いまさる大阪市、賑いまる大阪市」と歌つた。

校長先生の講話は、早く終わってはいため、上の空で聞く。これで式が終わる、待望の紅白の饅頭が貰えるからである。式の日、大半の生徒のお目当ては、この饅頭にあった。

一月一日の歌については、子供たちの間に替え歌が大流行した。「豆腐」の始めは豆である、尾張名古屋は大地震、松竹ひっくりかえして大騒ぎ、後の始末は誰がする」というもの。歌の稽古の時間に

大阪は夏の夕暮から、有名な夕凪ゆうめいきが始まる。風が止つてしまつて、ことさら暑い。長屋の前に細長い縁台を出して、夕涼みゆうりょうみが始まつる。男は半裸に近い姿で、女はアッパツバ姿になつて、暑さを凌ぐ。調子にのつて替え歌の一部を歌い、先生から大目玉だいめだまをくつた者がいた。

だ。世間話も暇がなかったが、男性の間ではとくに縁台将棋が盛ん。街灯や門灯の明りの下で、夜遅くまで勝負が続かれていた。

子供たちも大人をまねて、下手なりに将棋に熱中した。“王手”とか“待った”とか大聲をあげながら、夜の更けるのも忘れる。幼い者は、将棋の駒ではさみ櫻棋や早回り競争などを楽しんだ。将棋遊びにふけって毎夜のように、「もう寝る時間だぞ」と親たちから叱られたものである。遙かな遠い昔、大阪下町少年の口

日の思い出は尽きない。(終)
中島様は一月に病にかかり、目下療養
リハビリ中であります。ご回復を祈念申
しあげます。(東邦成育会コムニティ云哉)

東晉書卷之三

学園だより

バドミントン部 国体「みご」と優勝

平成9年10月25日から10月30日の期間、大阪市長居陸上競技場を中心として大阪府下各市で第52回国民体育大会（通称なみはや国体）が開催されました。その中でバドミントン競技は大東市で開催され、本校から3年生の永谷和也君と福川和也君が大阪府の代表メンバーとして参加致しました。国体の代表メンバーというのは、成年男子、成年女子、少年男子、少年女子の各種別で各3名です。そこで、その3名のうち2名が本校より選ばれたということです。もう一人は此花学院の中尾修一君です。3名とも小・中学生の時代から実績もあり、全国的にも有名な選手達でしたので、この大会においてもかなり期待されるものになりました。

国体の試合形式というのは都道府県対抗の団体戦であり、ダブルス・シングルス→シングルスの順で試合が行なわれ、この2ダブルス・シングルスのうち、二つとったチームが勝ちというものです。ダブルスに出場した選手が、シングルスに再び出場しても構いません。さて試合の方ですが、二回戦は柄木を2対0、三回戦は福岡を2対0、準々決勝は滋賀を2対0、準決勝は石川を2対0にして参

1で下して決勝までやってきました。決勝は右のブロックから上がってきた熊本県です。ダブルスは熊本県、第1シングルスは大阪府と1対1で、次のシングルスに優勝がかかってきました。熊本は八代東高校の二瓶、大阪は本校の永谷です。1ゲーム目は先行しながら追いつかれましたが、何とか取りました。2ゲーム目も14点まで先にとり、あと1点で優勝まで行ったのですが、逆転され取られました。3ゲーム目は先行されながらも粘り強く追いつき、最後の最後までもつれましたが競り勝ち、優勝することが出来ました。また、大阪は成年男子准優勝、成年女子優勝、少年女子第3位と各種別とも健闘し、見事過去最高得点で総合優勝を果たすことも出来ました。

皆様のご声援に感謝致したいと思います。

私も、その一員として、アーチェリー競技に登場しました。弓を持つ手、押し手の全指先を標的のイエローに向け、弦を素直に放す。矢は「ドス」という鈍い音とともに的をヒットする。「矢」「矢」全身の筋肉を緊張させ72射する。心の迷い、気のゆるみが、矢をイエローからレッドへ外し、9点から8点へと。そしてナイター照明が足元を照らす頃まで射ち続けました。「エイミングはイエロー、メタルはゴールド」と常に心でつぶやきながら緊張感を保ちつけた試合。金メダルを手にしたときは本当にうれしかった。表彰式終了後、たくさん仲間が集まってきた。話題を「なみはや国体」にもどさないでは」と心配したが、運良く参加することことができた。このように全く休みなしで皆活動してくれた。私も休業中の学校の門扉開閉は、お手のものになってしまった。

御堂筋パレードも、「今回は参加できないのでは」と心配したが、運良く参加することことができた。このように全く休みなしで皆活動してくれた。私も休業中の学校の門扉開閉は、お手のものになってしまった。

さて、話を「なみはや国体」にもどすが、総合練習会や模擬国体、そして、天皇・皇后両陛下の御前で、開会式の演奏、そして我校のみの担当でホッケー競技の表彰式終了後、たくさん仲間が集まってきた。とても喜んでくれた。静かに私を支えてくれた多くの仲間がいました。このスポーツ大会を通じ、私は記録を声援し、私のガッソボーズをはじつと見守ってくれた仲間。そこには、今まで



国体バドミントン競技会

「ふれ愛びつく大阪」に参加して

天本秀晃 教諭

『なみはや国体』万歳!!

吹奏楽部顧問 北原祥弘

長いようで短かった。昨年度、三年生と二年生で国体メンバーを編成、今年度になつて更に再編成して国体練習に臨んだ。国体使用曲が多く、最初の練習はたまごめいて今 はばたいて未来」のスローガンのもと、障害者への理解を深め、身体に障害のある人もない人も、ともに誰もが同じよう生活できる社会をともめる祭典、全国身体障害者スポーツ大会が、11月2・3日、長居公園を中心になみはやドーム、久宝寺緑地で開催されました。

その開会式、長居陸上競技場の緑一色の芝に映えて、白を基調に黒の線がひときわ目立ったユニフォーム、それが大阪府選手団です。

私も、その一員として、アーチェリー競技に登場しました。弓を持つ手、押し手の全指先を標的のイエローに向け、弦を素直に放す。矢は「ドス」という鈍い音とともに的をヒットする。「矢」「矢」全身の筋肉を緊張させ72射する。心の迷い、気のゆるみが、矢をイエローからレッドへ外し、9点から8点へと。そしてナイター照明が足元を照らす頃まで射ち続けました。「エイミングはイエロー、メタルはゴールド」と常に心でつぶやきながら緊張感を保ちつけた試合。金メダルを手にしたときは本当にうれしかった。表彰式終了後、たくさんの仲間が集まってきた。話題を「なみはや国体」にもどすが、総合練習会や模擬国体、そして、天皇・皇后両陛下の御前で、開会式の演奏、そして我校のみの担当でホッケー競技の開始式が長居球技場で行われ、マーチング披露と式典演奏を行つた。このように本番を重ねていくにつれ演奏の内容もすばらしく、閉会式、それから一週間後には「ふれあいピック」の開閉会式が皇太子・皇太子妃の前で演奏。「ふれあいピック」の閉会式後、横山ノック知事が我々の演奏席の方に来られ、挨拶された。そして指揮棒を一振りされた後、ミニコン



Club activities

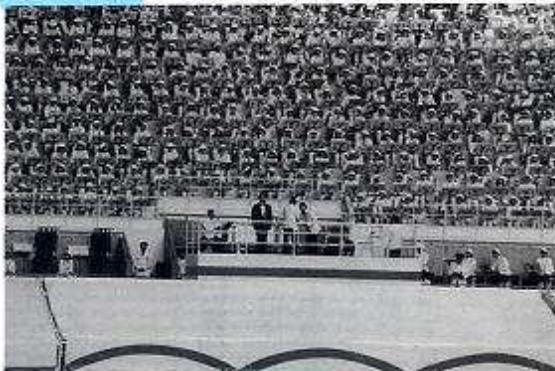
國体奏楽隊

長居競技場

国体奏楽隊

長居競技場

去る8月、南アフリカ共和国ダーバンで開催された「インド・パシフィックランボリンチャンピオンシップ」に日本代表として派遣された都竹貴宏君（3年5組）は、シングル・シングルの両部門で堂々の銀メダルを獲得しました。また9月20日から22日まで香川県坂出市で行われた第16回全日本ジュニアabadミントン選出権大会で松下文雅君（3年6組）がインターハイ上位の強豪を次々と打ち破り準優勝を果たしました。



国体奏楽隊 長居競技場

アフリカで、香川で 銀メダル！

【全国高校選抜大会】
団体組手第五位（平9）
個人組手第三位（平2）

【近畿高校大会】
個人組手 優勝（平2）
団体組手準優勝（平6）

【全国高校総体】
個人組手第六位（平9）
団体組手準優勝（平6）

【国民体育大会】
少年男子組手出場（平8・平9）
また、他にも大阪大会では数多くの優勝記録を残しています。

しかし、私はただ単に練習し強くなるだけではなく、空手道を通じて多くの仲間を作り、豊かな人間性を育てる事を第一の目標にしています。

今の世の中は物が溢れ、人の心も物に習慣されてしまいます。そんな中、しんどい練習にも必死に耐え、家に帰ってからは学習にもがんばっている生徒達の姿は、何よりも貴重で、美しいものだと思います。

これからも空手道を通じて、生徒達が人生において大きな宝をつかみ取れるよう、手助けしていきたいと思っています。

詩吟部

第21回全国高等学校総合文化祭詩吟詠
剣詩舞部門発表大会の成績。

○団体の部 文化連盟賞受賞

○個人の部 全国表彰7名受賞
優秀賞 16名受賞

サートが行われ、興奮の渦と化した。胸の内には、苦しかった事等が走馬灯のように巡り、奏楽隊のメンバーは皆涙して泣いていた。この感激や興奮は一生忘れるものではないだろう。青春の一ページとして本当に良い経験をさせてもらった。我高校の生徒は長居陸上競技場が近かったので、大型楽器の搬入、搬出も手伝った。このような裏方の経験もし、感動の涙を流してくれたように思う。初めから終わるまで色々な経験を共にし、私の指揮で演奏（国体奏楽隊の指揮者は、府立淀川工業高校の九谷先生、連盟理事の佐藤先生、そして私の三名）してくれたことは、私にとって、すばらしい体験として一生の思い出になるだろう。

五百名の奏楽隊と六百名の合唱隊、万歳。

私は空手道部は創部27年を誇る、伝統あるクラブです。また、数多くの優秀な成績も修めています。代表的なものは、次の通りです。

「にんげんづくり」 空手道部



空手道全国大会

なみはや国体に 出場して

バレーボール青年男子二部
総監督 久米藤馬 元教諭



戦後、国体の中で大阪府単独で国体が開催されたのは初めてである。

その国体に、成年9人制バレーボールチームの監督として出場の機会に恵まれ、本当に幸運でありました。

元全日本選手、実業団チーム等で活躍をした選手達を集めてチームを結成し、本年一月より月4回を目標に練習を重ねました。

私は会社で仕事をし、夜に集まっての練習でしたので、本当にバレーボールが好きでないと出来ない事だと思います。五月には読売新聞に「9人制バレーボール」といわれた記事が出たので、優勝をして当たり前のプレッシャーがありましたが、十ヵ月におよぶ練習の結果、本番では皆様の期待に応える「優勝」が出来ました。

校園関係の方々に厚くお礼を申し上げます。こんなすばらしい人生の思い出が出来たことに感謝しています。

「成器学園百年史」 編纂委員会発足

五年後に創立百周年を迎える本学園の記念事業の一環として、「百年史」を編纂すべく、委員会が発足しました。提言や資料情報提供のご協力お願いします。

編纂事務局・立山清志

行同窓會
事

同窓会は毎年三大行事を開催しておりますので、是非ご参加下さい。

平成九年度 同窓会定期総会開催

この後総会の審議に入り、同意会規約一部改正を含め各議案すべて全会一致で承認可決された。

総会終了後、長居パークホテルにて恒例の懇親会が開かれた。

学園のギター部、空手道部の模範演奏や演技が披露され終始なごやかなムードの中楽しい会話が交され旧交を温め来年の再会を約して散会した。

高野山普賢院一泊参拝旅行に参加して

同窓会副会長 田伸 弘義
平成九年八月二日（土）、南海電鉄の難波駅を午後一時過ぎに発車し、大阪の炎暑が嘘のような聖地高野山駅に二時半過ぎ到着、バスにて千手院橋で下車、才ぐの普賢院に着く。毎年のように同窓会主催の普賢院一泊旅行に参加しているが普賢院に来ると都座を離れ、真夏の暑さ

が一遍に落着くし、ゆったりした気分にさせてくれる。今年の参加者は昨年の半分の十四名に止まつたが、和田貞夫前衆議院議員がお孫さんの中山晶大君（十七歳）と一緒に参加されたり、華道日下部流家元監事で茶道表千家流の二薫斎富賢師こと竹本富晴氏も初めての参加で、普賢院のお隣りの普門院でお茶を教えておられる関係で、八月三日の早朝普門院の有名なお庭（小堀遠州作）を拝観させて頂いた。

八月二日の夜の食事の席に着いたところ、普賢院の現住職で高野山大学教授で医学博士である森寛勝師（師は大正十年成器商業卒業平成六年十二月二十六日に遷化された元高野山真言宗總本山金剛峯寺第四百六十四世座主を勤められた故森寛紹師のお孫さんである）が見えられ、出席者一同に丁重な挨拶をされた。その中で『老僧（祖父）は晩年「今日あるは成器のお陰だ」と絶えず母校への感謝の念を忘れず、このことをよく聞かされました』と話され強い感銘を受けた。そのあと精進料理を頂戴し、お酒を酌み交し楽しく懇談。

八月三日（日）は普門院の庭園を拝観後、大教会の中で写経を行い、授戒を受ければ、昼前に現地解散した。今年の参加者は少なかつたが、この行事は毎年続けようの声が圧倒的に多く平成十年度も趣向をこらし、参加者が増えるよう広く呼びかけていきたい。

議院議員がお孫さんの中山晶太君（十七歳）と一緒に参加されたり、華道日下部流家元監事で茶道表千家流の二薫斎富賢師こと竹本富晴氏も初めての参加で、普賢院のお隣りの普門院でお茶を教えておられる関係で、八月三日の早朝普門院の有名なお庭（小堀遠州作）を拝観させて頂いた。

平成九年度秋季懇親会

總務委員 橋本 浩行

平成九年十一月二十一日(土)午後六時よりニューミュンヘン南大使館で成器字園同窓会秋期懇親会が開催されました。開会宣言の後、井内博見同窓会会長よ

り開会の辞が述べられ続いて、足立好一理事長の挨拶そして、学校からは安永和大校長より、現在の学園の様子、国際コース設置等への説明があり、日々発展していく母校の様子に同窓生たちも大変満足そうであった。

宴会は、高野光男氏による乾杯で始まり、毎年恒例となつたミュンヘン・上杉取締役による日本舞踊の披露と、式は次第に盛り上がり、コロンビアレコード



高野山参拜旅行参加者

慶事

デュエットもあり大盛況となつた。

叙勳を受けられた方

同窓会にご連絡頂いた叙勲
関係者は次の方です。遅れま
したがお詫び申上げます。

（昭和十一年卒二部二十一期生）
平成四年秋の叙勲

計報

ご逝去の通知をいただいた方々のお名前と卒業年次を掲載し、故人のご冥福を祈るとともに同窓生各位にお知らせします。
（改行略）

同窓会活動報告

(自平成8年2月9日付「会報第2号」改訂分以降、から平成9年12月31日まで)

平成9年3月29日出成器商業昭和13年卒

9年4月19日出平成9年度同窓会総会

午後2時半開催、午後1時半終了

於ニーニミンヘン南大使館出席者28名

井内同窓会長、安永校長、大矢先生の三名が特別参加

本会は東京、神奈川県等の遠隔地からも参加し、内容の充実した会合であった。

平成9年3月29日出成器商業昭和13年卒

9年4月19日出平成9年度同窓会総会

午後2時半開催、午後1時半終了

於ニーニミンヘン南大使館出席者28名

第3回懇親会開催について

当季初11月22日由開催としていたが東部

成器会と重なることとなつたため、日程変更の是非につきお詫びしたい。

成器会事項、その他

(4)農鳥好朗元校長 8月27日ご遅去

(5)島野山曾賢院一泊参拝旅行の結果報告

(6)募金・年会費の受入状況について

平成9年4月1日から平成9年9月30日まで

募金 12名 全額 六一二、〇〇〇円

手数料 四、五四〇円

手引人金額 六〇六、四六〇円

手引人金額 三九六、〇〇〇円

手数料 二二、二一〇円

手引人金額 一、八九二、〇一〇円

特別年会費 溢名 合計

(参考 平成8年度山曾賢院年会費支拂込)

募金 13名 募金額

手引人金額 六〇六、四六〇円

手数料 二二、二一〇円

手引人金額 一、八九二、〇一〇円

手数料 二二、二一〇円

依頼)作成委員会を設置することと、

副委員長に上野副会長、副委員長に久米

各副会長、田中敏、前田、松田、大

高木、平尾、田中敏の各氏に就任して

いたしたこととなつた。

刊行の中味(CONTENTS)をどう

するか(編集方針)、何員グテにす

るか(郵送料額減策)、誰に書いて

もらわか等々を議論した。

②創立周年(平成10年)に向かっての

会員名簿作成準備に関する件

(3)学事報告

(4)議長選出

(5)平成8年度行事報告

(6)平成8年度決算報告

(7)会計

(8)監査

(9)規約改正

(10)役員改正

(11)会長

(12)各委員長

(13)会計

(14)監査

(15)規約

(16)会計

(17)監査

(18)規約

(19)会計

(20)監査

(21)規約

(22)会計

(23)監査

(24)規約

(25)会計

(26)監査

(27)規約

(28)会計

(29)監査

(30)規約

(31)会計

(32)監査

(33)規約

(34)会計

(35)監査

(36)規約

温かいご寄付に感謝
寄付金応募者ご芳名録

支拂付者	二百三十名
金額	百九十万五千円也
● 平成九年四月一日受付分以後の方	(別着略)
橋本	浩打様(昭和5年卒) 大阪市平野町
山本	浩樹様(平成5年卒) 高石市
石市	河守 武士様(昭和6年卒) 大阪市守口区
西園	雅治様(平成5年卒) 大阪市住吉区
村瀬	義樹様(昭和37年卒) 坂出市
相田市	和男様(昭和41年卒) 塚市
高田	市
南市	浅田 明様(昭和48年卒) 羽曳野市
堺市	政友様(昭和50年卒) 南河内郡
内長野市	泰久様(昭和58年卒) 桑田市
市	和男様(昭和41年卒) 塚市
大塚市	堀木様(昭和50年卒) 八尾市
和島市	山下聖太郎様(昭和56年卒) 泉南市
和泉市	常和様(高校卒業後) 東大阪市若草町
和泉市住吉区	基二様(昭和60年卒) 堺市
和泉市	博輝様(昭和51年卒) 三木市
川本	謙治様(平成5年卒) 和歌山市
宮崎	市
西田	志介様(平成5年卒) 八尾市
吉田	孝義様(昭和13年卒) 大阪市住吉区
市	田中善二郎様(昭和17年卒) 奈良市
市	弘次様(昭和13年卒) 和歌山市
増田	市
赤井	市
古岡	福太様(昭和19年卒) 三木市
佐野市	市
和泉市	謙治様(昭和13年卒) 大阪市住吉区
佐野市	市
河内市	勝馬(英)教員 欽
柴田	泰二様(昭和36年卒) 福岡市南区
大坂市	和男様(前) 橋本
野田	裕次郎様(昭和63年卒) 堺市
吉田	和男様(前) 松原市
市	秀勝様(昭和16年卒) 大阪市住吉区
市	勝美様(昭和60年卒) 大阪市住吉区
市	仲本美代様(昭和13年卒) 大阪市住吉区
市	仲本美代様(昭和13年卒) 大阪市住吉区
市	勝馬(英)教員 欽
北村	泰二様(昭和63年卒) 堺市
西野	弘次郎様(昭和16年卒) 大阪市住吉区
市	博文様(第41年卒) 和泉市
市	和生様(昭和43年卒) 東大阪市生駒町
市	筑城様(昭和63年卒) 東大阪市生駒町
市	康隆様(昭和63年卒) 富田林市
市	猪俣(昭和63年卒) 富田林市
市	正明様(昭和11年卒) 堺市
市	正明様(昭和11年卒) 堺市
市	岩雄様(大正15年卒) 大阪市守口区
市	路雄様(平成5年卒) 大阪市住吉区
市	猛様(昭和13年卒) 堺市
市	正光様(昭和20年卒) 大阪市住吉区
市	加古智文之様(昭和36年卒) 大阪市大正区
市	智夫様(昭和36年卒) 大阪市大正区
市	安田

井内	博見様御用25年老	松原
横瀬	芳郎様御用16年等 大阪市東住吉	源
岡崎	義磨様御用24年等 人和郡山田	木
岡崎	義磨様御用25年等 大和郡山田	木
長岡城	一郎様御用13年等 西宮	木
安永	和夫様御用校長 廉	木
鍋谷	安安様御用校教諭	木
羽田慎	一郎様御用31年等 沢木	木
本田	重彦様御用25年等 長良	木
谷中	信治様御用14年等 佐藤	木
山内	綱様平成9年等 大阪市住吉	木
杉原	貞己様御用13年等 楠	木
荒木	康雄様平成4年等 大阪市西宮	木
松田	惣寛様御用58年等 大阪市東住吉	木
大塚	修様平成5年等 大阪市西宮	木
追田	光信様御用83年等 塚	木
堀田	隆之様御用49年等 東大津	木
岡田	芳一様御用9年等 大阪市東住吉	木
丸山	光次様御用28年等 大阪市住吉	木
岡本	温夫様御用7年等 吹田	木
杉田	均様御用49年等 東京都足立	木
杉田	均様御用40年等 東京都足立	木
上坂	坂造様御用3年等 大阪市住吉	木
島田	孝様御用14年等 大阪狭山市	木
平野	貴様御用15年等 大阪市城東	木
吉田	一男様御用10年等 大阪市西成	木
神原	正朝様御用16年等 大阪市住吉	木
三宅	英家様御用32年等 東	木
松岡	哲様御用45年等 南	木
八成会	会語入	木
宗平	健夫様御用8年等 松方	木
高橋	平蔵様御用8年等 大阪	木
笠井	啓司様御用8年等 八幡	木
平成九年四月一日より平成九年十二月二日		木
十一日までの寄付者	八十二名	木
金額	六十九万二千五百円也	木

- 10 -

平成十年度成器学園同窓会への募金につきご支援方お願い

平成九年一月発行の成器学園同窓会報「学芸」第一号にて平成九年度の募金をお願い致しましたところ、平成九年二月二十四日以降平成九年三月三十一日までの一ヶ月余で百六十七名、金額百二十七万三千円の多額のご寄付をお寄せ頂きました。この結果平成八年四月一日から平成九年三月三十日までの平成八年度分としては、募金者数二百三十名、募金額百九十万五千円となり払込手数料一万二千九百九十九円を差引き後、正味入金額は百八十九万一千円となりました。平成九年四月開催の総会資料に掲載致しました、募金事業の内容と合致しております。茲に厚く敬意を表し感謝申し上げます。

平成九年度のスタートである平成九年四月一日以降平成九年十二月三十一日までの募金状況は募金者数八十一名、金額六十九万二千五百円の募金にご協力ご支援を頂いております。

平成九年二月以降募金にご協力頂いた方のご芳名録は別掲10頁記載の通りです。今年度から特別年会費もお願いし、同窓の皆様に多額のご負担をおかけし心苦しく存じますが、同窓会財政基盤を堅固にしつつ、会報を毎年継続発行するため、かつ学園創立百周年に際し、学園に同窓会として可能な限りの協力をしていく観点からも募金活動は本年度も継続実施致します。

同窓会活動の活発化、組織の強化、運営の円滑化は喫緊の課題であります。

委員長	本部長	連絡先	平成十年度募金事業本部
松田 東川 和人	井内 博見	〒558-3003 大阪市住吉区長居一丁目四番十五号	
			募金主体 成器学園同窓会
			募金は一口一万円口数制限なしで
			(ただし事情により一口単位に達しない場合にも喜んで)お受け致します。

同窓会の諸組織が色々な分野で活発に動くには財政的な裏付が不可欠であります。残念ながら同窓会の現況は少し改善はしましたが十分ではありません。同窓生の心のふるさと母校と同窓生を結ぶ絆は年一回発行の同窓会報「学芸」しかありません。同窓会としてはこの会報を全同窓生にお届けすることで、母校への関心を高めて頂き、同時に同窓会活動にもご理解とご協力を得たいと考えて参りました。この結果平成八年四月一日から平成九年三月三十日までの平成八年度分としては、募金者数二百三十名、募金額百九十万五千円となり払込手数料一万二千九百九十九円を差引き後、正味入金額は百八十九万一千円となりました。平成九年四月開催の総会資料に掲載致しました、募金事業の内容と合致しております。茲に厚く敬意を表し感謝申し上げます。

平成九年度から特別年会費もお願いし、自助努力で会報を発行しつづけるため、同窓会各位の積極的なご支援をお願いします。

平成九年度から特別年会費もお願いし、会報を一回発行するだけで、学園より交付される会費収入の1・5倍の出費を伴います。

同窓会財政の健全化、活動の活発化及び会報継続発行等々に資するため、何卒ご理解を賜わり、ご協力ご支援のほど、お願い申し上げます。

同窓会の諸組織が色々な分野で活発に動くには財政的な裏付が不可欠であります。

残念ながら同窓会の現況は少し改善はしましたが十分ではありません。同窓生を結ぶ絆は年一回発行の同窓会報「学芸」しかありません。同窓会としてはこの会報を全同窓生にお届けすることで、母校への関心を高めて頂き、同時に同窓会活動にもご理解とご協力を得たいと考えて参りました。この結果平成八年四月一日から平成九年三月三十日までの間には募金者数二百三十名、募金額金百九十万五千円に達しました。

毎年卒業生には卒業証書を入れる筒を全員に配布し、同窓会の幹事に就任してくれるクラスの代表二名、学年全体で二十七名には委嘱状と記念品を贈呈しています。インターハイや、なみはや国体に出場したバドミントン部や空手道部、御堂筋パレードで活躍している吹奏楽部や、全国高校総合文化祭で頑張っている詩吟部等、近畿大会や

平成八年度 決算報告

全国大会に出場の際には同窓会より金一封を贈り諸活動に協力しています。

平成八年度の募金は同窓生のご支援により平成八年四月一日から平成九年三月三十日までの間に募金者数二百三十名、募金額金百九十万五千円に達しました。

また特別年会費も平成九年二月と三月の二カ月のみで五百八名、金九十八万五千七百円のご協力を賜りました。ここに深く敬意を表し、厚くお礼申し上げます。尚決算報告は平成九年四月十九日(土)開催の定期総会にてご承認を得ております。

平成8年度 収支決算書			
(自 平成8年4月1日~至 平成9年3月31日)			
収入の部	科 目	予 算 額	決 算 額
会員費	貢金	1,960,000	1,350,000
会員費	会員料	10,000	1,296
会員費	特別会計割余金	100,000	202,505
収入	収入	0	23,399
正寄	正寄	600,000	548,570
特別年会費	特別年会費	0	50,000
前期総額	前期総額	2,250,265	985,700
合計	合計	4,920,265	6,011,735
単位: 円			
差引増減額			
備考			
※学生 380名分 銀行預金利息 総会当日高野山秋季懇親会 新年会各特別会計割余金 90年史代 100円、名連代 卒業生事務費現金等 同窓会報広告料 伊丹名鑑会より同窓会の路 新規に際し頂く 508名分、口座販替手数料 30,300円差引分			

支出の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差引増減額
会員費	貢金	200,000	168,160
会員費	会員料	50,000	50,000
会員費	特別会計割余金	550,000	255,100
会員費	会員費	1,300,000	1,001,413
会員費	会員費	250,000	1,401,340
会員費	会員費	30,000	8,009
会員費	会員費	180,000	0
会員費	会員費	300,000	240,000
会員費	会員費	100,000	94,843
会員費	会員費	200,000	36,360
会員費	会員費	100,000	0
会員費	会員費	50,000	27,102
会員費	会員費	0	47,174
会員費	会員費	(3,310,000)	(3,269,301)
会員費	会員費	1,610,365	2,742,434
会員費	会員費	合計	1,132,169
会員費	会員費	合計	1,091,470
単位: 円			
備考			
定期除会費 平成3年度定期総会資料 会報総会合議会内休憩料 郵送料電話料 文房具、小物類購入 事務局手当料 在校生クラブ活動奨励金 卒業證書入会料、卒業生 同窓会常任幹事委嘱記念品 東部成器会総会出席 のための交通費 90年史購入代 記念写真焼増代等 同窓会の旗新調			
○ 平成8年定期総会資料 会報総会合議会内休憩料 郵送料電話料 文房具、小物類購入 事務局手当料 在校生クラブ活動奨励金 卒業證書入会料、卒業生 同窓会常任幹事委嘱記念品 東部成器会総会出席 のための交通費 90年史購入代 記念写真焼増代等 同窓会の旗新調			

財産目録 平成9年3月31日現在			
資本財	貢金	5,505,464円	
会員費	会員料	1,020,520円	12,037,544円増加
会員費	特別会計割余金	622,450円	
会員費	会員費	491,734円	128,284円減少
会員費	会員費	762,255円	
会員費	会員費	0円	0円
会員費	会員費	1,020,464円	
会員費	会員費	0円	0円
会員費	会員費	37,541円	1,256円
会員費	会員費	1,256円	
会員費	会員費	1,020,010円	1,020,810円
会員費	会員費	合計	1,020,810円
会員費	会員費	貢金	74,783円
会員費	会員費	会員料	2,183,951円
会員費	会員費	特別会計割余金	463,750円
会員費	会員費	会員費	2,742,434円

